

訪問看護ステーション幸



救急搬送を減らすカギは“訪問看護”にある

～訪問看護の機能を再確認しませんか～

株式会社幸
看護師

代表取締役
森永 早紀



自己紹介

森永 早紀



- 18歳で結婚・出産・離婚を経験
- 看護師になることを決意し、看護学校へ
- 息子が小学校に上がるタイミングで訪問看護へ転職
- 息子の不登校をきっかけに起業を決意
- 2021年11月22日 株式会社幸設立
- 2022年 5月 1日 訪問看護ステーション幸開設
- 2024年11月 1日 川崎2号店開設
- 2025年 5月 1日 横浜南3号店開設
- 2025年12月 1日 横浜緑4号店開設
- 2026年 3月 1日 横浜保土ヶ谷5号店開設予定

救急搬送の現状

- ・ 高齢化の進展に伴い、救急出動や搬送件数は増加の一途をたどっている。
- ・ 特に85歳以上の高齢者における救急搬送率は顕著に上昇し、医療・介護現場に深刻な課題を突きつけている。

図2 救急自動車による救急出動件数及び搬送人員の推移

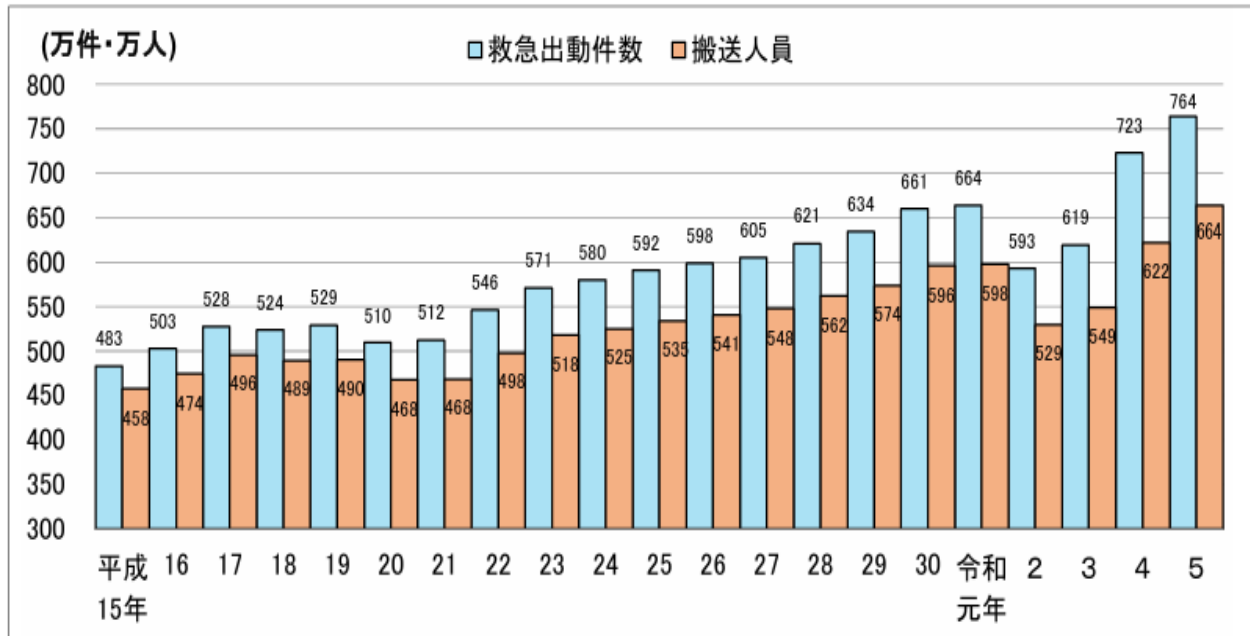
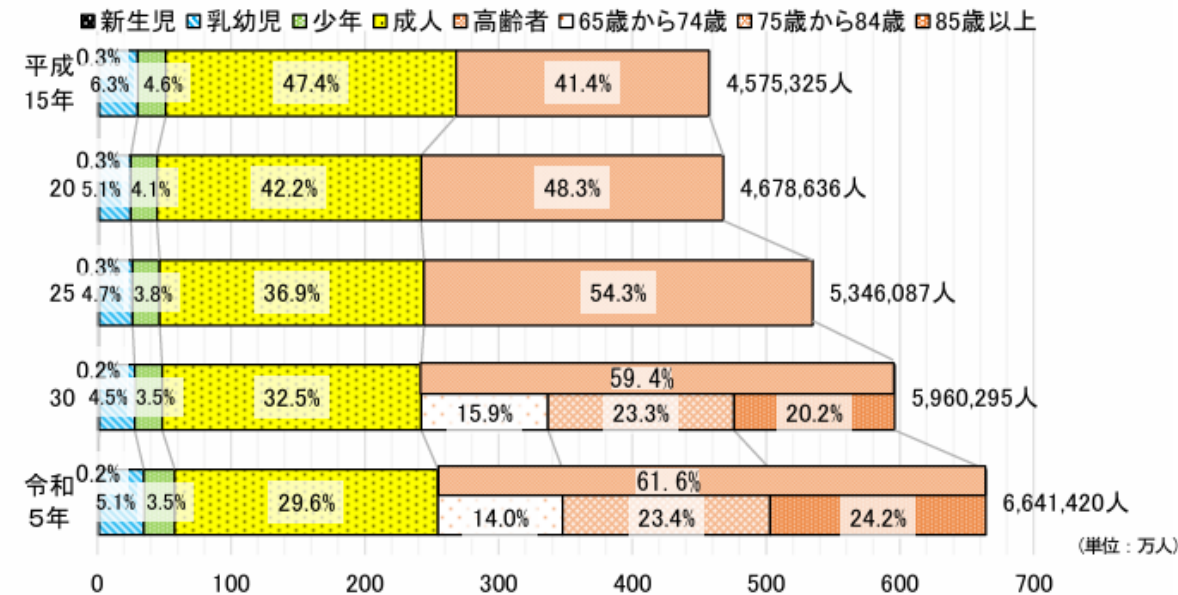


図8 年齢区分別の搬送人員と構成比の5年ごとの推移



総務省「令和6年版 救急・救助の現況」の公表より
(https://www.soumu.go.jp/main_content/000991299.pdf)

疾病や急変だけでなく、孤立や生活不安など多様な要因が存在

訪問看護の強み

そもそも訪問看護とは
看護師が自宅を訪れケアを行い、在宅で過ごされる方の生活を支える



+



=

24時間
安心

定期的な訪問に加え「緊急電話・相談窓口」として機能

「救急車を呼ぶべきかどうか」と迷う場面で
訪問看護の介入が適切な救急要請や搬送の判断につながっている

事例①：独居高齢者の救急要請ゼロへ

導入前



毎日救急要請

導入後



電話相談や定期観察

結果

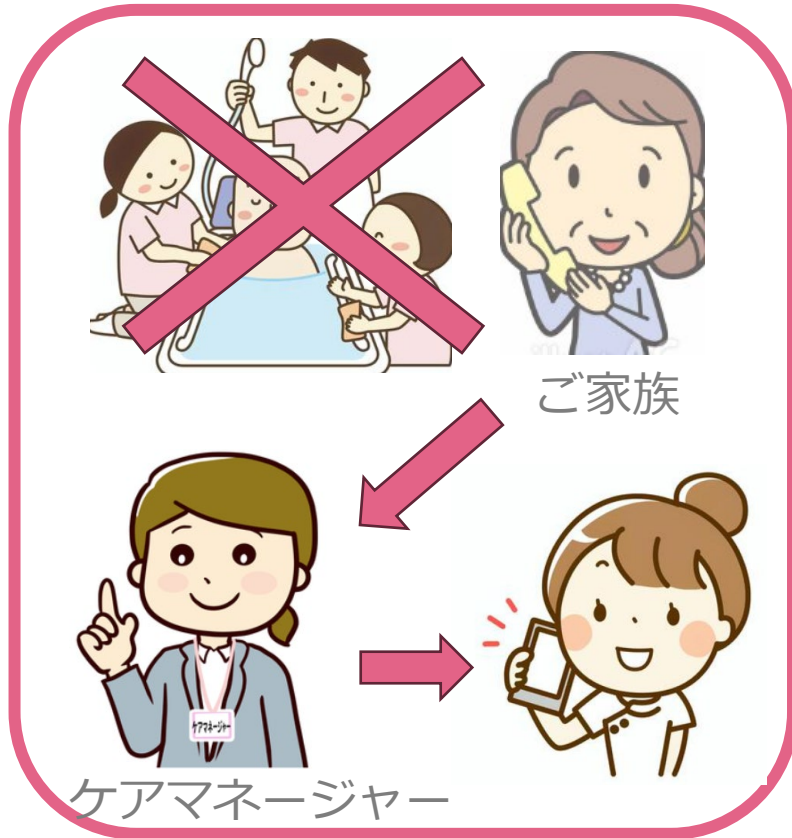


救急要請ゼロ

「安心して頼れる窓口」として機能

事例②：適切な救急搬送につながったケース

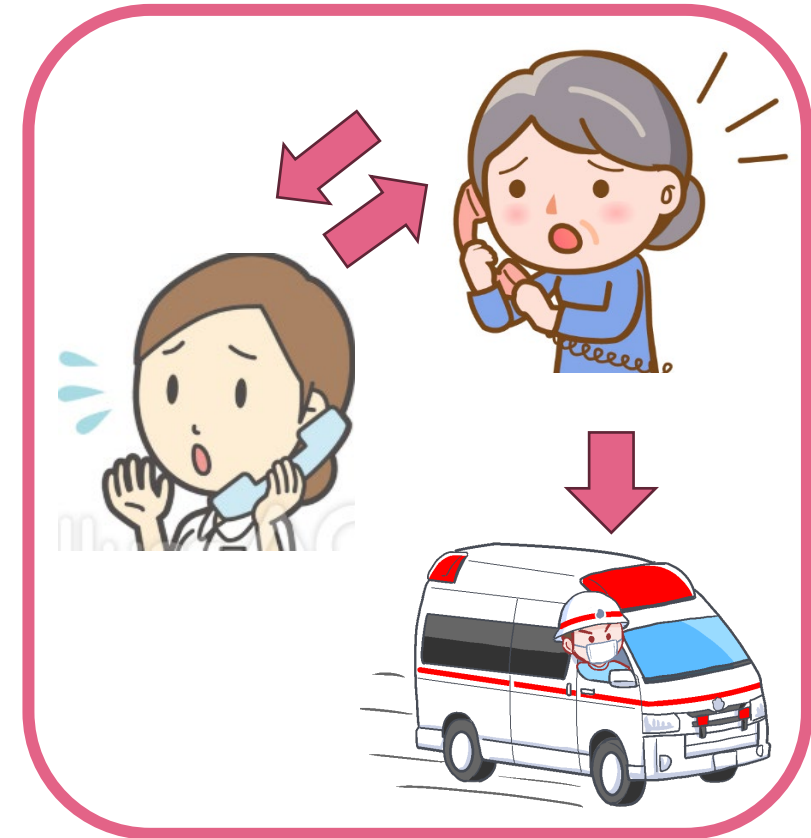
体調不良の相談



看護師が緊急訪問



救急要請指示



必要な場面で適切な救急搬送

日常の継続的な支援



「日常を知る看護師の報告」は貴重な情報源

「安心を備えるための制度」の活用【緊急電話サービス】

- いつでも何度でも相談電話OK！
- 必要であれば訪問も可能！（別途費用）
- 要支援の方もOK！

**24時間365日
電話OK**



介護保険

緊急時訪問看護加算

1割負担：668円/月
(横浜市)

令和6年度介護報酬改定関連ページより

医療保険

24時間対応体制加算

1割負担：680円/月
(全国一律)

令和6年度診療報酬改定の概要【在宅(在宅医療訪問看護)】厚労省より

訪問看護の役割



+



=

24時間
安心

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らすための基盤

消防が訪問看護を“近くて頼れる存在”となる仕組み



訪問看護の活用を進化

訪問看護ステーション幸 緊急電話サービス

契約者総人数

220人/月

緊急電話サービス契約者

なし

40%

(146人)

利用者総人数
366人

あり

60%

(220人)

緊急加算つけている人の特徴

- 病状変動のリスクが高い
- 安心を買いたい(特に独居の方)

緊急電話合計回数

526回/年

訪問し救急要請

0.8%
(4人)

電話にて救急要請依頼

0.3%
(2人)

緊急訪問

40.7%

(218人)

電話のみ

58.2%

(308人)

緊急電話の内容

- 痛み、呼吸苦、発熱などの相談
- 排便コントロール（便秘・下痢・浣腸・下剤）
- 眠れない、不安、独居不安によるコール
- 点滴、ストマ、酸素、内服薬など医療機器や薬剤の相談
- 転倒後の相談（受診すべきかどうか）

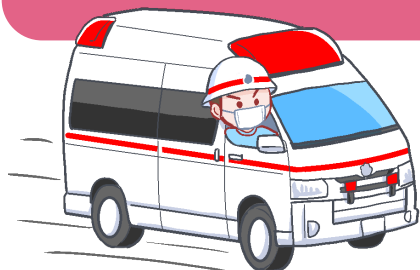
繰り返す人のポイント

- 不眠、不安が強く「とにかく誰かに聞いてほしい」「来てほしい」が動機のことが多い
- 排泄、内服、食事量などへの不安が強い
- 終末期、看取り前後の緊急訪問が連続する方

現在



緊急電話



搬送

訪問

高齢者が増えれば
緊急電話も増える

救急搬送

1/100

訪問看護へ
接続・連携

適切
判断

緊急訪問

電話のみ

高齢者が増えても
緊急電話は適切な回数

今後



緊急電話



安心
窓口

救急搬送を減らすカギは“訪問看護”にある

～訪問看護の機能を再確認しませんか～

ご清聴ありがとうございました！

